

■本実証の概要

1 背景

佐賀県では重要施策として「自発の地域づくり」に取り組んでおり、県内各地に主体的に地域づくりに取り組む団体も生まれています。また、離島においても、グランピングの運営や島留学の促進など、島ならではの環境や地域資源を生かした取組みが行われています。

2 離島が抱える課題

島民生活の安定及び産業振興等を図るうえで離島航路は必要不可欠ですが、便数やダイヤには限りがあり、災害発生時や荒天時には欠航する事もあるなど、地理的孤立による生活不安があります。

また、離島の診療所で処方できる医薬品には限りがあるため、受診後に本土の薬局へ移動し処方を受ける場合もある等、日常生活においても不便な生活環境にあります。

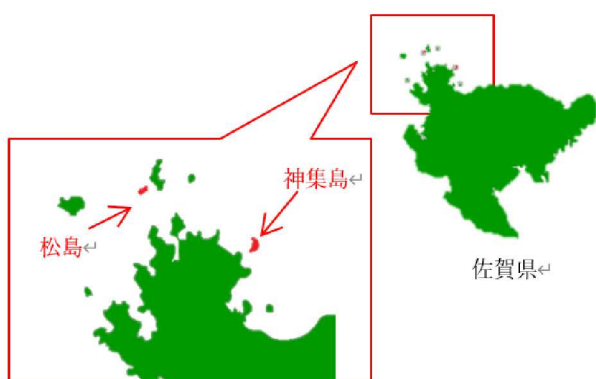
3 実証内容

住みよい島づくりに向けて島民が主体となり継続的に取り組むため、スマート技術を活用し課題解決を目指す新たな体制を構築します。実証では、技術検証だけでなく実証後を見据えロールモデル創出検討も行います。

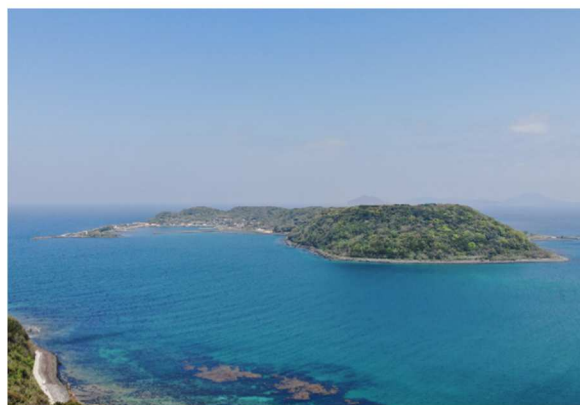
【ドローンを活用した取組み】

- (1) ドローンを活用した「防災・多用途の活用実証」
(災害時の被害状況把握及び支援物資の輸送、医薬品配送、害獣生態調査等)
- (2) ドローンを実装するために必要なドローン人材の育成・体制づくり
- (3) 他島への水平展開を見据えたドローン体験会（デモ会）及び成果発表会の開催

4 実証対象となる離島



< 神集島、松島所在地 >



< 神集島全景 >

< 参考 > 国土交通省 報道発表資料

https://www.mlit.go.jp/report/press/kokudoseisaku11_hh_000110.html